# 会　議　記　録

高松市附属機関等の設置、運営に関する要綱の規定により、次のとおり会議記録を公表します。

| | |
|---|---|
| 会　議　名 | 令和7年度第2回大島を未来へつなぐ会 |
| 開催日時 | 令和8年3月17日（火）12時30分～14時30分 |
| 開催場所 | 国立療養所大島青松園大島会館 |
| 議　題 | (１) 大島青松園の永続化の必要性について<br>(２) 今後の大島の在り方について<br>(３) その他 |
| 公開の区分 | ■　公開　　□　一部公開　　□　非公開 |
| 上記理由 | |
| 出席委員（18名） | 特別参与、委員：<br>北川特別参与、臼山委員代理篠原様、岡野委員、筧委員、神谷委員、金委員、近藤委員、酒井委員、笹川委員、沢委員、髙橋委員、都谷委員、野村委員、平田委員、森委員<br>オブザーバー：<br>高原氏、東樹氏（厚生労働省医政局医療経営支援課）岩倉氏（同省健康・生活衛生局難病対策課） |
| 傍聴者 | 4人（定員10人） |
| 担当課及び連絡先 | 政策課　839-2135 |

| 会議の経過及び結果 |
|---|
| **（１）大島青松園の永続化の必要性について**<br>ハンセン病療養所の永続化の重要性・緊急性については、入所者自治会が活動する上で最も重視していることであり、今後の大島の在り方に関する議論の根幹を成すものであるため、このことについて、入所者自治会会長の森委員から説明を行った。<br>（森委員）<br>配布資料「療養所の永続化問題の重要性と緊急性」に基づき、説明を行った。<br>（野村委員）<br>最近、学生の施設見学等の受入れを行う中で、小学生の時に大島を訪れた生徒が中学生になって再訪した際、感想文として川柳を作ったが、大島に対して非常に深く理解されていることが分かった。また、大島に来てから 74 年になるが、最 |

近では故郷から講演依頼等もいただき、我々に対する理解が目に見えてきたという実感もあるし、これまで我々が行ってきたことが無駄ではなかったことを実感した。これからも本会において、委員から様々な意見を聞きながら、良い方向に進めて行けたらと思う。
（神谷会長）
永続化を語ることは、現在の入所者の方々の（医療や介護を含めた）豊かで安心した生活を充実させることにつながっていく。また、ハンセン病の隔離の歴史や尊厳を守るために戦ってきた当事者や介護者の方たちの生き様を残すことは、ハンセン病だけでなく、その他の差別を無くす力になっていくものと考える。それから、このようにすばらしい方々が生きてきたこの場所を地域で活用していくことにより、豊かな社会を築くことができる、そのような部分に永続化の議論の意義があると整理させていただきたい。

**（２）今後の大島の在り方について**
第１回会議での議論を踏まえ、特別参及び各委員のうち希望者から、「大島青松園の医療機関としての維持と充実」「社会の共生としての地域開放」「ハンセン病問題・人権啓発の場とすること」の３つの観点を踏まえた今後の大島の在り方について提言する資料を事前に提出いただき、それに沿って、順次、発表いただいた。
（北川特別参与）
配布資料「大島の将来へ向けての取り組み」に基づき、説明を行った。
（近藤副会長）
配布資料「未来につなぐ大島の魅力」及び「大島青松園の御影堂にお参りしよう」に基づき、説明を行った。
（筧委員、三谷様）
配布資料「『今後の大島の在り方』への提案」に基づき、説明を行った。
（酒井委員）
配布資料「大島を未来へつなぐ会での意見」に基づき、説明を行った。
（笹川委員）
配布資料「これまでの活動から考える大島の未来」に基づき、説明を行った。
（沢委員）
配布資料「大島をのこし、伝えるために」に基づき、説明を行った。
（髙橋委員）
現在、大島焼を通じて他療養所との関わりが生まれているが、関わる当事者自身がそれを楽しむことが大切であると説明があった。

**（３）その他**

次回以降の本会の開催スケジュール及び議題について、事務局より説明を行った。

（閉会）